中等習字帖

日高秩父書

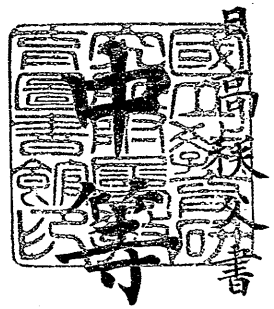
下

K220.72
57
3

K220.72

57

3



習字帖 下

同文館藏版

古陵松柏吼天飈
山寺尋春春寂寥
眉雪老僧時輟帚
落花深處說南朝

蹈破千山萬岳煙鑾輿
今日到何邊單騎直入
虎狼窟一匕深探鮫鰐淵

報國丹心嗟獨力回天事
業奈空奉數行紅淚兩行
字付與櫻花奏九天

謹啓拝啓一筆啓上
拝復之福紙重拜復
家里何ゝ等ゝ心一
越之事拝位惶謹言

下ノ三

先生殿様尺下
拝啓小生下使
親展直授平伏望事
至急出発答礼願迄

相原来る十五日より法後
二週間の講習を以て

何〻地方へ修学旅行致す
筈なれば右は通知申上候

天ノ大任ヲ是ノ人ニ降サントスルヤ
必ズマヅ其ノ心志ヲ苦シメ
其ノ筋骨ヲ勞シ其ノ體膚ヲ
餓エシメ其ノ身ヲ空乏ニス

拜啓芙蓉酷敷仕霊に障りも
不被為在ん哉と伺ひ申上候

扨此品輕少なるも進呈
致ん間に笑納被下度ん敬具

下ノ七

身體髮膚受之父母
不敢毀傷孝之始也

立身行道揚名於後世
以顯父母孝之終也

佛道他鄉多苦辛
同袍有友自相親
紫扉曉出霜如雪
君汲川流我搭薪

遠上寒山石徑斜
白雲生處有人家
停車坐愛楓林晚
霜葉紅於二月花

月桂の美歳を撞鉄する
西洋としてその情濃たる

青春よ深く愛する我は
桂の世界なるべし

霜滿軍營秋氣清
數行過雁月三更
越山併得能州景
遮莫家鄉憶遠征

忘かすはぬれざらましを旅人の
あとゝりはる〻野辺のおもゝ

一夜はまかなき夢ぬ地して
久しぬる什をおどろかれぬる

新年の吉祥日先祭り納め
業家係は多忙の様子迎新
年準備に忙しく御多幸を祈る

一同異事なく過ごす事
出来た事は先祖の恩恵
御加護の如くに感謝致す

春とやこゝろとゝのふ月と梅
時雨なるやこゝ在と十文字

名月や愛の上に松の影
ぶりかんこゝに捨ぶこゝまで

下ノ十五

盛年不重來一日難再晨
及時當勉勵歲月不待人

功者難成而易敗時者難得
而易失也時乎時不再來

世に才氣ある人は多し才氣ありて
徳ある人は少し年少くして才のみ
優れたるは譬へば鋭き刀の肉薄きが
ごとし物を截ることはなはだすぐれ

折らるべし恐れは免るべからずさればば
世の奇まを抱きながら成功を見ず
して中途より事を廢する例は
數へも盡くしがたし

K2007

大正元年十月書

楳翁居士高穆文

宮田六左衛門刻

下ノ十八

中等習字帖　全三册

定價各金拾六錢

大正元年十月廿三日印刷
大正元年十月廿八日發行

不許複製

編輯者　同文館編輯部
著者　日高秩父
發行兼印刷者　森山章之亟　東京市神田區淡路町二番地

發兌　同文館　東京市神田區表神保町二　電話本局特四三七、三三六七　振替貯金口座東京一三五番